
自転車の練習

茄子野郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

自転車の練習

【Nコード】

N0774Q

【作者名】

茄子野郎

【あらすじ】

補助無し自転車の練習をしている親子をじっと見つめる青年がいた…

広い神社の境内で仲睦まじく親子が自転車に乗る練習をしている。

どうやら今日初めて補助無し自転車に乗ろうとしているらしい。近くにはその光景をじーっと神妙な面持ちで見ている一人の青年がいる。

「お父さん、僕一人で自転車に乗れるようにするためにバランス感覚を養う特訓や

早く漕げるように足を動かす練習を頑張ってきたけど絶対に一人で乗れる気がしないよ…

落っこちたものすごく痛いし…すごく怖い…絶対に無理だよ…」

「そうか。じゃあお父さんが落ちないように後ろからしっかり支えてやるよ。

お父さんが見守ってるんだから絶対大丈夫だ。そうだろう？」

「うん！ありがとう！」

少年は恐る恐る自転車を漕ぎ出した。

「う、うわ…こ、こわい」

「大丈夫！お父さんが後ろから支えてるから！」

父親はニヤニヤしながら言った。

少年は倒れることなく自転車を漕いでいる。

「やった！ちゃんと乗れたな。今度はおまえ一人で漕いで見るんだ。

大丈夫、おまえならできる」

「ええ…？でも…。その前にもう一回お父さん支えてて。まだちよつと怖い。」

「しょうがないな。これが最後だぞ」

少年は再び自転車を漕ぎ出した。

「さっきよりは怖くないや」

「慣れてきたか？後ろから支えがあるから落ちることはないぞ」

「うん。でもやっぱりお父さんが後ろから支えてないとこわ…」

ぬわああああああ

少年は自転車を急に止めて顔を真っ赤にして怒り出した。

「お父さん支えてるって言ったのに手離してるじゃないか！」

「ぶははは。ばれたか。いいか？お前は本当はお父さんが支えてると思わなくても

一人で乗れるんだよ。

今度は自分ひとりでやってみろ」

「え…わかったあ…」

少年はすいすいと自転車を漕いでいる。

「や、や、やったあああ！乗れた！乗れたよー！」

「よかったな！お父さんに感謝しろよ」

「うん！お父さんのおかげ… かなあ？」

よく考えたらお父さん何もしてないよね。後ろから支えてるって僕に思わせただけで…なんにもしてない」

「お、おお…ま、まあそうなんだがな」

「なあんだ…昨日自転車乗るの教えてもらうためにお父さんに肩たたき300回もやったの

ものすごい損した気分になってきたよ」

「・・・」

息子はぐるぐると神社の境内を一人でキャッキヤと走り回って

いる。

その一部始終をみていた青年は学業成就で受験生に有名なこの神社で

1万円もする御守りをたった今買ったところだったが、こう言っ
た。

「すいません。返品ってできます？」

「・・・」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0774q/>

自転車の練習

2011年1月16日08時05分発行